

災害にも強い 「ニュース報道システム」づくり

これからの技術変化＝ファイルベース化を活かしたシステムとは

3月11日、未曾有の大震災に襲われた日本列島。ファイルベースによる統合型ニュース制作システム「F-BINUS」を既に構築していたフジテレビは、続々と現地から送られてくる映像を見事に捌き、視聴者にとって有益な情報を提供し続けた。これまでは「テープメディアからの置き換え」「放送局の次世代型システム」と捉えられていたファイルベースシステムが、新たに「緊急報道に最適」という特徴を示した。その最適さは、どれほどのものなのか。本誌主催「Xデー勉強会」（開催：6月23日）で、フジテレビから報告してもらった。併せて、ニュース報道システムを提案するアビッドテクノロジー、池上通信機、NEC、グラスバレーから提案を聞いた。このXデー勉強会をレポートする。

（構成：高瀬徹朗・本誌特別ライター）

第1部 フジテレビ報告

緊急・連続運用からみた ファイルベース報道システム 「F-BINUS」の総括

報告：山本 智 フジテレビジョン 技術局制作技術センター報道技術部副部長（当時）



ファイルベース化のメリット4点

「F-BINUS」構築を担当した立場から、今回の東日本大震災においてどのように活用したかを紹介する。

ファイルベース化のメリットは大きく4点。①待機時間と空間的制約の解消、②時

間軸からの解放、③容易な素材共有、④素材とメタデータの密接な連携だ。いつでもどこでも、自由な時間に自由な場所で作業できることにより、作業効率や時間の短縮にも繋がる。また、使いたい素材を確実に使えるという共有のメリットも大きい。メタデータによって素材の検索やプレビュー

が容易に行える点もわかりやすいメリットと言えるだろう。

「F-BINUS」のシステム設計では、安定稼働を大前提に、新規開発案件に対する設計担当者の配置から費用の効率的配分に至るまで、さまざまなリソースの有効活用に重点を置いた。具体的には、システムの安